

小学生のための初心者水泳教室—科学のおまけつき—

赤対秀明（神戸市立高専 機械工学科） 寺田雅裕（神戸市立高専 一般科）

キーワード：地域貢献、産学官民連携、全国連携、水泳教室、小学生、科学のおまけ

1. はじめに

高等教育機関の使命として、教育、研究と並び地域貢献が第3の使命として加えられ、さらにこの地域貢献は、産学官連携から産学官民連携へと展開している。

本校ではその一環として、体育教員と水泳部員が、泳げない小中学生を対象に5日間の初心者水泳教室を開催した。その際、高専だからこそできる、いろいろな科学を体験する「科学のおまけつき」を併設した。参画した学生は、教わる立場から教える立場に変わり、教えることの難しさを体験した。

本報では、高専の公開講座としてはめずらしい科学や技術系以外の公開講座の開催にあたり、高専らしさを取り入れて「科学のおまけつき」を併設したユニークな水泳教室の実践を報告する。

2. 水泳教室の提案

数多くのスポーツの中で、水泳ほど社会体育として根付いているものはない。スイミングスクールには誰でも簡単に入会でき、老若男女関係なく活動できるものとして人気が高い。また温水プールが完備され、快適な環境で1年中活動できる。しかし、それは全てスクール側のプログラムに沿ったもので、多様なニーズに応えきれていないのが現状である。一方、選手コースも用意されているが、ここに在籍できるのは一握りの有望視される選手だけであり、4種目を泳げるようになる行き場を失い、最終的には辞めざるをえない。全ての水泳愛好家が選手になるわけではないのに活動場所を失っているのが現状である。

このような現状に対して、もっと自由で水泳が好きな人が自分のペースで楽しめるクラブを創設したいと考えていた。筆者の一人は、体育教員で水泳を専門とし、部活動は水泳部を指導している。上記のような思いのほかに、水泳部員には、専門的な知識の習得だけでなく、水泳を通して人間形成をしてもらいたいと思っていた。人に物事を教えることは、言動の難しさを学び、相互の立場を考え理解することは幅広い社会視野が身につく。いろいろな経験は、社会に出てからも困難に立ち向かう力を育むことができると思っていた。

このような2つの思いから、本校に赴任して学校の仕事にも慣れてきた4年目に、思い切って、校長や地域協働研究センター、あるいは水泳部員に提案してみた。工業系の学校でなぜスポーツ講習会と言われるのではないかと考えていたが、逆に多くの賛同を得、多方面から協力を頂いた。初心者向け教室の内容は、

段階的に、水慣れおよび浮き方、呼吸法を学ぶ／いろいろな補助や支持をしてもらって浮く／浮いて進んでみる／補助具を使って一人で浮いて進む／25メートルのスイムに挑戦と着衣泳／である（寺田）。

3. 科学のおまけ

当初は、「各地にスイミングスクールがあるので、泳げない子はそちらへいつている」、「小学校でも『夏休みがんばり水泳』」などで泳げない子の指導をしている」、「中学生になるとこの種の講座にはこない」、とか否定的な意見が多かった。

しかし、高専で水泳教室とは意外性があるし、水泳部員の活躍次第ではスイミングスクールでは実現できないきめこまかな指導が可能であることなど、また体育教員の熱意にも押されて、実施に踏み切った。しかし、それでも応募者が少なかったらどうするかということで、最小遂行人員を20名とした。

さらに、高専ならではの「科学のおまけ」を併設した。これがずばりとあたり、応募者は定員40名に対して49名であった。科学のおまけは、5日間の日替わりメニューで、ペットボトルで作る「フライングフィッシュ大会」説明／プールサイドをスイスイ？ホバークラフト試乗会／全国ロボコンベスト4のフリスビーマシン登場！君は何枚取れるか、賞品つき／気分は高専生！実験室探訪／ペットボトルで作る「フライングフィッシュ大会」賞品つき／である（赤対）。

4. 実施状況

募集は、小中学生を対象とした。公報「こうべ」やHPに掲載すると共に、近隣の小学校に募集リーフレットを配布した。小学低学年が圧倒的に多く、男子23名、女子26名の参加となった。

夏休みに入って間もない平成14年7月22日から26日まで、午前11:00から12:30に行なった。この時間の前後に科学のおまけを開設した。水泳教室は、教員1名、学生27名、科学のおまけは、教員10名、学生15名で実施した。受講料は一人1000円、団体保険料500円を徴収した。一般のスクールでは、この日程換算で8000円の費用が必要とのことである。

5. アンケートから

水泳について

学生のお姉さんお兄さんに常についてもらい、毎日、「今日はこんなことができるようになった。」とうれ



図1 水慣れ（フロート渡り）



図2 補助つきで泳ぐ

しように話していました。5日間ではなく、もっと行きたいと言っています。楽しく指導してくださり、ありがとうございました。

- 先生や学生の方も親切に教えてくださり、とても充実した5日間でした。特に水が怖くてまだまだ怖そうですが、どうしたら沈むかを教えて頂いたのがすごく印象的だったようです。教え方もわかりやすくて良かったです。
- 寺田先生、先生の愛情たっぷりのご指導には感動しっぱなしでした。次から次とこんなに楽しく導いていただいていたら子供達もプールが好きになるはずと思います(図1)。またプールサイドで水をいやがっていた子が、日毎に笑顔が増えていき心から楽しんでいる様子を見せてもらってやっぱり感動。寺田先生、すごいです。
- たくさんのお兄さん、お姉さんに見守って頂いてありがとうございました。手をかけ、声をかけ笑顔をいっぱいくださいました。子供たちは大好きです。皆さんのすご〜いエネルギーを感じました。お兄さんお姉さんの泳ぎを見せていただいたのも、子供たちには刺激的だったようです。大会前のところ、貴重な時間を頂きました。感謝しています。
- 応募のときに「知的障害児です」と言ったにもかかわらず、受け入れてくださったこと本当にうれしく思っています。先生をはじめ学生のお姉さんお兄さんにはとてもお世話になりました。本人も1日目よりも2日目、2日目よりも3日目と日がたつにつれ

て水に慣れ、楽しみ始めています。お友達と同じことはできませんが、身勝手をさせてもらい本人は満足の水泳教室でした。有り難うございました。

- たくさんのお兄さん先生に囲まれて、少々無茶をしても、必ず助けてもらえるという安心感からか、のびのびしていました(図2)。レッスンの合間の保護者へのアドバイスが分かりやすくて良かったです。

科学のおまけについて

- 人見知りをする子が、お兄ちゃんにあこがれて、「この学校にぼくも来たい」と言ったときには、驚きました。まだ実験ってことにピンときていないかもしれないけれど一つのきっかけになりそうです。
- なかなか校内を見ることもない「高専」に入ること身近に感じられ、またのびのびとした校風や授業システムなど少しわかったので、将来の子供の進路を考えると、今回の経験が役にたつこともあるのではないかと思います。来年も来たいです。



図3 ホバークラフト試乗会

学生の感想

- 子供達と上手くコミュニケーションがとれるだろうかと心配であった。しかし、この5日間で水泳を楽しむ喜びを学んだのは、子供達だけではない。できないことができたときの喜びなどを分かち合え、何事にも代え難い貴重な体験ができた。教えてもらう立場から、教える立場に変わり、新しい視野が広がった。何か言葉で表せない達成感を感じている。

6. おわりに

平成15年7月、第2回目の水泳教室を開催した。第1回の案内先に加えて、近隣の3区内の小学1年生に、案内ビラを配布した。50校から合計268名の応募あった。当初、50名定員としていたが、今回は水泳部員も多いということで、急遽、70名に増やした。

水泳教室は高専ではめずらしく、科学のおまけは高専だからこそできる、という特徴的な水泳教室の事例を報告した。この手法は他の文系公開講座にも適用できるものと思われる。

地域貢献が第3の使命とされ、産学官連携から産学官民連携への展開期を迎え、また地域連携から全国連携へと模索されている時期に、本校の事例が参考となれば幸いである。